

質問及び回答

2020年9月30日

「(案件名)「バングラデシュ国地方防災計画策定・実施能力強化プロジェクト」
(公示日:2020年9月16日/公示番号:)」について、質問と回答は以下の通りです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	現地アサインについて	既存プロジェクトに適用されている、現地滞在期間が2週間である現行ルールは本件業務にも適用されるのでしょうか？	ご質問にある「現行ルール」は以前の2週間の滞在制限があった際のルールを指していると理解しました。現在は現地の渡航時の安全状況に応じて2週間を超える滞在が可能です。事務所による事前の渡航許可が必要です。 一方でコロナの影響により、現時点ではコンサルタント契約に基づく現地渡航は行っていません。現地渡航が可能になった際には、バングラデシュ政府や日本政府あるいはJICAの方針に基づき、バングラデシュ事務所による事前の渡航許可や入国後2週間の自主検疫期間を設けるルールが適用される可能性があります。
2	P17(5)活動の概要3-4 実施可能な構造物対策案を、予算を含めて計画する	構造物対策案を、予算を含めて計画するためには、踏査図面の作成、対策工計画のための測量、地質調査(ボーリング含む)、場合によっては観測/試験が必要となりますが、こうした作業実施の意向はありでしょうか。実行しない場合、根拠の乏しい対策案、および予算案となりますが求められる精度はこれで宜しいでしょうか。また、これを実行する場合、その経費はプロジェク	本活動項目は、地方防災計画の中で実施可能な構造物対策案を検討することを想定しており、M/Pレベルの精度を想定しています。現時点では既存データ(バングラデシュ側で実施されている現地工事費等の概算経費含む)等での対応を想定していますが、同レベルの検討において現地調査等の必要性が生じた場合、状況に応じて対応検討します。

		ト予算に組み込む必要がありますか。	
3	P21 パイロット地区の設定	<p>パイロット事業は、実施した成果そのものが目的ではなく、活動を通じて、他地域への普及や全国展開について貴重な経験・教訓を抽出して、それを仕組みとして活用していくことが重要となる。</p> <p>経験や教訓は「活かす」ものであり、抽出するなら「課題」となります。成果を出すことだけが目的ではないという意味かとおもいますが、「成果そのものが目的でない」でなく、目的の1つであることは確かとおもいます。「経験から教訓」がそのまま「仕組み」になることにも違和感があります。上記の文意は</p> <ol style="list-style-type: none"> ①パイロット事業を実施すること。 ②実施した際は、パイロット事業を他地域への普及や全国展開を考えた場合の課題を抽出すること。 ③パイロット事業の経験・教訓を生かして、他地域への普及や全国展開のする上で、必要な項目(人材育成や国のサポートなど)を検討する 	ご説明のとおり理解で問題ありません。

		こと。との理解でよろしいでしょうか。	
4	P22 (8)パイロット郡における地方防災計画策定の考え方 「既存の地方防災計画」について	冒頭の背景では、「地方レベルの防災計画は、ほとんどの地域で作成されていない。」とあるにもかかわらず、ここでは「既存の地方防災計画を改訂する形で地方防災計画を策定していくことを想定」とあります。対象の県と郡では、既存の地方防災計画があるとの理解でよろしいでしょうか？	地方防災計画がすでに策定されているかどうかは、地域により異なるため選定された対象地域に既存の地方防災計画があるかどうかは、現時点で不明です。また冒頭の背景での説明については、すでに策定されている既存の地方防災計画のほとんどが、応急対応に特化した内容となっており、本案件が目指す災害リスク削減(防災事前投資)に即した計画はほとんど作成されていない、という意図となります。
5	P26 下から5行目 バングラデシュデルタプラン 2100 の見直しのタイミング	2018年に承認された2030年までの投資プログラムですが、すでに見直しが予定されているとの理解でよろしいでしょうか？ そのタイミングの時期について、情報があれば教えてもらいたい。	バングラデシュ計画省によれば、5年毎に見直しがされる予定であり、次回更新の作業は2022年から始まり、2023年には修正版が承認される予定との情報です。
6	P30 (19)ローカルコンサルタント及び現地傭人の育成・活用	ここでいう「コンサルタント」とは個人か、または組織を想定しているか？	プロジェクト運営上の効率的・効果的な方法並びにローカルコンサルタントの育成という観点から法人組織としてのコンサルタントを想定しています。
7	P 33 ②活動 1-1 ハザード・リスクアセスメント手法を確立する 「ハザード・リスクアセス	左記は手法を確立するように読めますが、地方行政官が継続して使いやすい手法を作成していくとの理解でよろしいのでしょうか。	ご説明のとおりで問題ありません。より精度を求める場合、経費等の多額の予算が必要な場合があるため、持続性の観点から望ましくない場合があります。現時点において、精度及び持続性を勘案した手法の確立を想定しています。

	<p>メント手法 を確立する。洪水リスク情報においては地形条件を活用し(活用例は配布資料⑤参照)、また JICA 包括河川プロジェクトにおけるハザード・リスク評価手法と齟齬が生じないよう、プロジェクト関係者と十分議論し方向性を統一するよう留意すること。」</p>	<p>洪水のハザード・リスクアセスメントは、既存の情報、雨量の把握情報や地形の精度によりアセスメントのレベルが変わります。多くの情報があれば、より現実に近い評価になりますが、あまり情報がない場合には、安全目に評価すればよいこととなります。信頼性の担保は手法ではなく、基礎情報の信頼性や制度によるとおもいますので、手法の信頼性の担保には違和感があります。同様に手法の確立にも違和感があり、将来では情報が増えれば、市販のシミュレーションソフトで、より現実に近くなるよう、確度の高い方法をとればよいだけのように思えます。</p>	
8	<p>P 33 活動 1-1 活用例は配布資料⑤参照</p>	<p>配布資料を拝見しました。地形や地形区分から洪水範囲を予測すると の理解でよろしいでしょうか</p> <p>洪水やハリケーンや高潮・津波は地形に大きく左右されます。そのため、地形や地形区分から、洪水範囲を予想するのは一般的です。配布資料⑤は衛星写真をつかって対応したことが特徴と考えます。とは</p>	<p>ご説明のとおり理解で問題ありません。考え方は、上記回答のとおりです。</p>

		<p>言え、衛星写真より(最近はお金をかければ高精度の地形はありますが)、空中写真やドローン、現地調査など精度が高くする方法はあります。どちらかといえば、地方都市が継続してつかえるように、コスト・パフォーマンスも含め検討し、継続性が高い手法を考えること理解しております。</p>									
9	<p>齟齬 P 33 活動 1-1 JICA 包括河川プロジェクトにおけるハザード・リスク評価手法と齟齬</p>	<p>「齟齬」がどの程度をお考えなのかご教示ください。 上記しましたように、洪水・ハリケーン、高潮・津波を想定する場合、地形の精度・水位などの観測網、使い手のレベルにより適した想定手法があると考えます。また安全側をどこまで見込むかは利用の仕方によって変わります。つまり、様々な条件により例えば、浸水の想定範囲は変わります。条件や地方行政の使い勝手や使用目的を考えた手法差異に伴う違いは齟齬ではないとの理解でよろしいでしょうか。</p>	<p>ここでの「齟齬」の意図は、精度の齟齬ではなく、JICA 包括河川プロジェクトで確立する手法との齟齬を意図しており、同プロジェクトの成果を踏まえて、整合性を取った上で、本プロジェクトで検討をしてもらう事を想定します。</p>								
10	<p>P13 プロポーザル評価配点表</p>	<p>業務主任者のみの場合、「③業務管理体制、プレゼンテーション」の配点が記載されていません。業務管理グループのみプレゼンテーショ</p>	<table border="1"> <tr> <td>3. 業務従事予定者の経験・能力</td> <td colspan="2">(〇〇)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(1) 業務主任者の経験・能力/業務管理グループの評価</td> <td colspan="2">(34)</td> </tr> <tr> <td>業務主任者のみ</td> <td>業務管理グループ</td> </tr> </table>	3. 業務従事予定者の経験・能力	(〇〇)		(1) 業務主任者の経験・能力/業務管理グループの評価	(34)		業務主任者のみ	業務管理グループ
3. 業務従事予定者の経験・能力	(〇〇)										
(1) 業務主任者の経験・能力/業務管理グループの評価	(34)										
	業務主任者のみ	業務管理グループ									

		<p>ンを開催し、評価するとの理解でよろしいでしょうか？ご教示願います。</p>	<table border="1"> <tr> <td>① 業務主任者の経験・能力： <u>業務主任者／都市計画</u></td> <td>(27)</td> <td>(11)</td> </tr> <tr> <td>ア) 類似業務の経験</td> <td>10</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>イ) 対象国又は同類似地域での業務経験</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ウ) 語学力</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>エ) 業務主任者等としての経験</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>オ) その他学位、資格等</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>② 副業務主任者の経験・能力： <u>副業務主任者／〇〇</u></td> <td>—</td> <td>(11)</td> </tr> <tr> <td>ア) 類似業務の経験</td> <td>—</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>イ) 対象国又は同類似地域での業務経験</td> <td>—</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ウ) 語学力</td> <td>—</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>エ) 業務主任者等としての経験</td> <td>—</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>オ) その他学位、資格等</td> <td>—</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>③ 業務管理体制、プレゼンテーション</td> <td>(7)</td> <td>(12)</td> </tr> <tr> <td>ア) 業務主任者等によるプレゼンテーション</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>イ) 業務管理体制</td> <td>0</td> <td>5</td> </tr> </table> <p>誤ってプレゼンテーションなしの評価配点表としていました。業務主任者のみの場合でもプレゼンテーションを実施し、評価します。プレゼンテーションありの配点表に差し替えた企画競争説明書を既配布者へ送付します。正しい配点は上記のとおりです。</p>	① 業務主任者の経験・能力： <u>業務主任者／都市計画</u>	(27)	(11)	ア) 類似業務の経験	10	4	イ) 対象国又は同類似地域での業務経験	3	1	ウ) 語学力	5	2	エ) 業務主任者等としての経験	5	2	オ) その他学位、資格等	4	2	② 副業務主任者の経験・能力： <u>副業務主任者／〇〇</u>	—	(11)	ア) 類似業務の経験	—	4	イ) 対象国又は同類似地域での業務経験	—	1	ウ) 語学力	—	2	エ) 業務主任者等としての経験	—	2	オ) その他学位、資格等	—	2	③ 業務管理体制、プレゼンテーション	(7)	(12)	ア) 業務主任者等によるプレゼンテーション	7	7	イ) 業務管理体制	0	5
① 業務主任者の経験・能力： <u>業務主任者／都市計画</u>	(27)	(11)																																														
ア) 類似業務の経験	10	4																																														
イ) 対象国又は同類似地域での業務経験	3	1																																														
ウ) 語学力	5	2																																														
エ) 業務主任者等としての経験	5	2																																														
オ) その他学位、資格等	4	2																																														
② 副業務主任者の経験・能力： <u>副業務主任者／〇〇</u>	—	(11)																																														
ア) 類似業務の経験	—	4																																														
イ) 対象国又は同類似地域での業務経験	—	1																																														
ウ) 語学力	—	2																																														
エ) 業務主任者等としての経験	—	2																																														
オ) その他学位、資格等	—	2																																														
③ 業務管理体制、プレゼンテーション	(7)	(12)																																														
ア) 業務主任者等によるプレゼンテーション	7	7																																														
イ) 業務管理体制	0	5																																														
11	P32 ⑤本邦研修の実施	<p>調査団員が同行、もしくは講師として対応する場合、P43 の「(1)業務量の目途」に示される MM 内で取り扱われるのでしょうか？それとも、同 MM にかかる費用は外見積で計上するのでしょうか？ご教示願います。</p>	<p>本邦研修の実施に係るMMIについては「(1)業務量の目途」に示されるMM内で対応して頂きます。一方で、調査団員の講師謝金、旅費等の経費計上は可能です。詳しくはウェブサイト上の「コンサルタント等契約における研修・招へい実施ガイドライン」をご確認ください。</p>																																													

12	<p>33 頁</p> <p>6. 業務の内容</p> <p>(1)全体に係る活動</p> <p>⑤本邦研修の実施</p>	<p>第 2 回、第 3 回本邦研修の員数、期間について、<u>各回でそれぞれ</u> WG メンバー10 名程度、実施期間 2 週間程度との理解でよろしいでしょうか？ご教示願います。</p>	<p>ご説明のとおりで問題ありません。</p>
13	<p>41 頁</p> <p>(3)技術協力作成資料等</p> <p>⑤ベースライン調査報告書(活動 4-2)</p>	<p>(活動 4-2)関連と読み取れますが、32 頁記載の事業効果測定及びパイロットサイト特定のためのベースラインの趣旨との関係をご教示ください。</p> <p>活動 4-2 で予定する調査は、成果 1～3 の教訓を踏まえ、全国展開優先地域を選定するための目的の調査と認識しております。一方、第一期で提出する本作成資料は、32 頁<③事業効果測定のためのベースライン及びエンドライン調査の実施>にございますベースライン調査の趣旨とも解釈できます。</p> <p>目的、実施時期が異なることから、それぞれ別々の調査とも理解できます。</p> <p>作成資料としては、4-2 活動とすれば、CP の全国展開へのイニシアティブ強化活動の価値があり、プロジェクト中盤から後半にかけての作成が効果的となり、他方、PDM 指標</p>	<p>提出いただく予定の「ベースライン調査報告書」は PO にも記載のとおり、プロジェクト開始 1 年を目途に活動 4-2 として実施する全国の災害管理委員会の状況や、災害・地域特性に係る情報収集の結果に係る調査結果を想定します。一方で、ご理解のとおりプロジェクト活動を進める上で随時アップデートする必要もあると認識しており、最終版として第 2 期契約の技術協力作成資料等に記載の「⑨地方防災計画展開計画」に含まれる形で提出いただく事を想定しています。</p> <p>なお、これとは別に、活動 1-1 に記載されているプロジェクト開始直後から 1 か月以内に実施するベースライン調査及びプロジェクト終了 3 か月前を目処に実施するエンドライン調査結果は、事業進捗報告書等に記載される想定です。</p>

		測定のベースライン調査と理解した場合は、モニタリングの上で価値があると認識しています。その場合、エンドライン調査報告(第2期)も合わせて作成することになるかと思料いたします。	
14	43 頁 3. 対象国の便宜供与	事務所スペースの提供等とありますが、電気、水道、ガス、電話(ランドライン)、インターネットの便宜供与についてご教示願います。	Record of Discussion に基づき、電気、水道、ガス、電話(ランドライン)、インターネットは先方負担により準備がされる予定です。一方で、実態としては、電話はランドラインのものは利用できない可能性が高いため、受注者による個別の携帯電話 SIM の購入が必要です。また、政府庁舎内のインターネット(Wifi)は弱いことが多いため、受注者にてモバイル Wifi ルーターなどを契約する必要があります。

以上